

■東成区将来ビジョン2026－2029（素案）

区政会議委員から寄せられたご意見と回答、将来ビジョン（案）への反映内容

※その他時点更新あり

番号	ご意見要旨	区政会議（勉強会）での回答	将来ビジョン（案）への反映内容	該当箇所
1	将来ビジョン全体として、「地域とのつながり」の維持、発展は、何をもって達成できたと測定するのか。また、今後4年間の区のめざす姿だけではなく、特に若年層等が影響を受けることになるこれからの100年を見据えた長期的な視点を入れることで、若年層等に興味を持ってもらえるのではないかと。【保健福祉勉強会】	・地域とのつながりは、多様な主体（企業、施設など）がどれだけ増加したか等をもってはかることは可能と考えている。 ・ご指摘のとおり、これからの100年を見据えた長期的な視点について記載がないので、検討する。 ・なお、東成区では東成区社会福祉協議会を中心に小学校における福祉教育の授業の実施を支援しており、より長いスパンでの福祉分野における区の将来像を描くに際して、こういった若年層への福祉教育を通じた次世代の福祉人材の育成についても支援してまいりたい。	ご意見を踏まえ、P1「東成区は、古くから人々の暮らしと交流によって育まれてきた歴史あるまちです。区内には、昔ながらのまち並みや親しみやすい地域性が今も受け継がれており、あたたかなコミュニティが息づいています。私は、こうした地域活動を通じて育まれた人と人との「つながり」が、東成区のかげがえのない財産だと思います。 <u>次の100年を担う若い世代をはじめとした多様な人々との対話を重ね、未来の東成区をより良く、より豊かなまちにするために、今この時を生きる私たちには、この「つながり」を守り、発展させていく責任があると考えています。</u> 」とし、下線部を追記・修正しました。	1ページ 「はじめに」
2	大阪公立大学森之宮キャンパスの開設、学生向けワンルームが建設など若い世代の人口増加が見込まれている。大学を一つの核として、5年10年先を見越したまちづくりを考えてはどうか。【まちづくり勉強会】	大阪公立大学との連携や、学生とともに行う地域活動については区としても現在検討しており、今後地域とも協力しながら進めてまいりたい。	ご意見を踏まえ、P5「・豊かな地域コミュニティを持続させるため、新たな担い手を継続的に確保できるよう地域を はじめ教育機関や関係団体等の様々な“パートナー” と協働し、区民が地域の強い結びつきや参加する喜びを感じられるよう取組を支援します。」とし、下線部を追記しました。	5ページ 施策展開の方向性 「①みんなが協働しイキイキしているまち」
3	小学校登下校の見守り活動の従事者が高齢であり、負担が大きくなっている。学生にもボランティアとして見守り活動に参加してもらえたらと思う。【まちづくり勉強会】	現在、東成区まちづくりセンターにてボランティア人材募集を行っており、希望者と地域のマッチングを行っている。学生ボランティアは区としても現在検討しており、今後地域とも協力しながら進めてまいりたい。		
4	若い世代に担い手になってもらう方法として、決まっていることを「やってください」ではダメ。ゼロから何かを作る過程を含めて取り組んでもらい、ベテランの世代がサポートする形で成し遂げることができれば、若い世代と地域とのつながりができるのではないかと。【まちづくり勉強会】	若い世代とともに行う地域活動については、今後地域とも協力しながら検討してまいりたい。		
5	20～30代の若い单身者を区としてどのように取り込むのか具体策はあるのか。【保健福祉勉強会】	若い世代の取り込みは、議論を始めたところであるが、若い世代の「得意なこと」で地域とマッチング、あるいはゼロから作り上げてやりがいを提供する等が考えられる。		
6	学生ボランティアのセミナーに参加し、学生はとても真面目に純粋にボランティア活動に取り組んでいることがわかった。若い人を取り込むことはどの地域でも課題であるが、若い人にどう声をかけてよいかわからないのではないかと。【保健福祉勉強会】	学生ボランティアに協力を依頼する場合、2パターンある。1つは人手が足りないから手伝っていただくケース。もう1つは、ゼロベースで学生ボランティアに企画段階から参加してもらうケース。地域でもベテランが温かい気持ちで見守っていけるような仕組みづくりを検討する必要がある。		
7	大阪公立大学との連携（学生ボランティア）は、どの地域で、いつ頃から開始されるのか。【区政会議】	地域活動の新たな担い手を創出するためのボランティア制度を、令和8年度に向けて検討している段階である。地域やまちづくりセンターと連携してご意見を伺いながら、ひとつのやり方に決めるのではなく様々な手法を試しながら進めていく。		

■東成区将来ビジョン2026－2029（素案）

区政会議委員から寄せられたご意見と回答、将来ビジョン（案）への反映内容

※その他時点更新あり

番号	ご意見要旨	区政会議（勉強会）での回答	将来ビジョン（案）への反映内容	該当箇所
8	東成区にある企業の従業員は発災時には帰宅困難者となる。企業側もそのことを理解することで、地域とつながりやすくなるのではないかと。地域から企業に対して何かを求めるだけでなく、地域や行政が企業に対して何かしらの対応ができる区となれば、地域と企業のつながりもよくなる。【まちづくり勉強会】	地域内における企業等のもつ人的・物的資源について、地域を含め、災害時に相互協力により補完しあえるような仕組みづくりについて、検討してまいりたい。	ご意見を踏まえ、P 6「・大規模災害に備え、区民、地域、 災害時協力企業等をはじめとする事業所 が自助・共助の視点に立ち、避難に支援が必要な方の避難支援や、災害時に適切な行動をとることができるよう地域防災力のさらなる向上を図ります。」とし、下線部を追記しました。	6ページ 施策展開の方向性 「②地域の活気と安心が共に息づくまち」
9	災害時協力企業等登録制度に登録しているが、ひとつの会社だけでは発災時に対応できないこともあり、地域における業種毎の集まりなどを考える必要がある。今後予想される発災内容を意識しながら、防災の在り方について検討してもらいたい。【まちづくり勉強会】	一社では対応できないことについて、業種や協力内容毎に連携することで区域全体の防災力向上を図れるよう検討してまいりたい。		
10	工夫を凝らした地域イベントを開催することで、多くの方が参加してくれているが、次の担い手の確保が課題。運営側として参加することの楽しさ、魅力をどうすれば伝わるのか分からない。今の時代は、これまでのように順番に世代を引き継ぐことは難しいと感じる。【子ども教育勉強会】	地域活動は「楽しい」がキーワードであり、続けていくには参加者も主催者も楽しいと思えることが重要。若い人は企画段階から参加することで長期間関わってもらえるという特徴もある。ベテランは若い人をサポートして見守ることもひとつのやり方ではないかと感じている。担い手の減少や固定化が見込まれる中、地域全体で子どもを育て支えることができる持続可能な仕組みについて、今後も皆さんと一緒に検討してまいりたい。	ご意見を踏まえ、P 7「・安心して子育てができ、ひがしなりっ子がすくすく育つよう行政、支援機関、地域、企業等が連携協働して地域社会全体がつながり、子育て家庭を応援する地域づくりを推進 するとともに、取組への理解促進や認知度向上を図ります。 」とし、下線部を追記・修正しました。	7ページ 施策展開の方向性 「③みんなで子どもの育ちや学びを支えるまち」
11	学生や若い人が多く住んでいるなら、愛着をもって長く住み続けてほしい。学生の間に住みやすい良いまちだと思えば、社会人になっても、家族と一緒に住んでみようと思うのでは。【保健福祉勉強会】	・愛着をもって長く住み続けてもらうためには何が必要か、皆さんと一緒に検討していきたい。	ご意見を踏まえ、P 8「・ 幅広い世代の 区民が住み慣れた地域で自分らしく安心して生活することができ、また、主体的・継続的に健康づくりや介護予防など健康寿命の延伸に取り組むことができる環境づくりを推進します。」とし、下線部を追記しました。	8ページ 施策展開の方向性 「④いつまでも自分らしく暮らし続けられるまち」